

九州・山口 6歳未満の子を持つ夫婦の 家事・育児時間等に関する調査報告書＜概要版＞

九州・山口に住む6歳未満の子どもを持つ夫と妻に、平日・休日別の家事・育児等の取組時間、家事・育児等に対する性別役割分担意識、男女が共に家事・育児を担っていくために必要だと思うこと、男性の育児休業等の取得の意向などについてWebによる調査を実施した。

※ 家事・育児等の取組時間＝「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」の家事関連時間の合計

● 平日の夫の家事・育児等の取組時間は2時間28分、妻は8時間57分。

- ✓ 平日における夫の家事・育児等の取組時間は2時間28分、妻は8時間57分で、妻の取組時間が夫より6時間以上も長い。特に「家事」「育児」の取組時間の差は3倍以上ある。

平日	合計時間	家事	看護・介護	育児	買い物
夫平均	2時間28分	41分	6分	1時間13分	29分
妻平均	8時間57分	2時間56分	22分	4時間18分	1時間21分

● 休日の夫の家事・育児等の取組時間は5時間8分、妻は9時間49分。

- ✓ 休日における夫の家事・育児等の取組時間は5時間8分で、平日よりも2時間30分程度長いものの、妻と比較すると4時間30分以上もの差が見られる。「育児」の取組時間に関しては、平日よりも3倍近く長くなっており、積極的に関与していることがうかがえる。

休日	合計時間	家事	看護・介護	育児	買い物
夫平均	5時間08分	1時間05分	8分	3時間01分	55分
妻平均	9時間49分	3時間00分	22分	4時間53分	1時間35分

● 1週間当たりの夫の家事・育児等の取組時間は22時38分、妻は64時間23分。

- ✓ 1週間あたりの夫の家事・育児等の取組時間は22時間38分で、妻よりも40時間以上短い。
- ✓ 県別に夫の家事・育児等の取組時間を見ると、最も長いのは「沖縄県」、反対に最も短いのは「福岡県」である。妻の取組時間は「山口県」が最も長く、「沖縄県」が最も短い。

1週間あたり	合計時間	家事	看護・介護	育児	買い物
夫平均	22時間38分	5時間36分	43分	12時間07分	4時間12分
妻平均	64時間23分	20時間39分	2時間32分	31時間15分	9時間56分

✓

● 共働き夫婦は全体の7割程度。家事・育児を親に支援してもらっているのは3割程度。

- ✓ 夫婦の就労形態は「共働き」の割合が69.5%、「夫のみ就労」が29.2%である。
- ✓ 「親と同居・近居し、家事・育児を支援してもらっている」割合は29.8%。それ以外の内訳は、「親と同居していない」が56.2%、「同居・近居しているが支援してもらっていない」が14.0%となっており、およそ7割は家事・育児の支援を受けていない。

● 家事・育児は「夫婦でするもの」という考えは強く根付いている。

- ✓ 「家事・育児は誰がするもの（理想）だと思うか」という問いに対して、性別・年代・居住地や就労形態別といった属性別に見ても「男女が共にするもの」が9割前後を占めており、夫婦共同作業という認識が根付いていることがうかがえる。

● 男性が家事・育児を担うには「夫婦や家族間コミュニケーション」が大切。

- ✓ 男性が家事・育児を担っていくために必要と思うこととしては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること（78.7%）」が頭一つ高く、「日常的に必要な“見えない家事”の存在や育児の内容を男性がもっと知ること（55.1%）」が続く。「コミュニケーションをよくはかること」に性別差は見られないが、「日常的に必要な“見えない家事”の存在や育児の内容を男性がもっと知ること」は男性よりも女性の方が必要だと感じている割合が高い。

● 男性の育児休業等を望んでいる人はおよそ8割だが、「取得が難しい」と思う人が少なくない。

- ✓ 「取得したい（してほしい）」と考えている人の割合は8割近くを占め、大多数に取得意向があることがうかがえる。しかしながら、その内訳を見ると「取得したい（してほしい）。申請すれば取得できると思う」の割合が44.0%、「取得したい（してほしい）が難しいと思う」が34.7%となっており、現実問題として希望すれば取得できるというような環境にはなさそうである。

● 育児休業等の取得に関する平均希望日数は92日。

- ✓ 取得希望日数は「15～30日（32.4%）」が最も高く、「31～90日（25.4%）」が続く。
- ✓ 実数入力値から算出した平均日数は92日であり、年代別に見ると若年代ほど長期間取得を望む人の割合が高くなる傾向にある。

● 育児休業等取得の阻害要因は勤務先の「人手不足」が多い。

- ✓ 「取得したい（してほしい）が難しいと思う」理由の自由記述を回答内容によって分類し集計した結果、「人手不足・代わりの人がいない」が最も多く、「収入の減少に対する不安・懸念」「育休取得に対する会社の理解が薄い」「職種や役職・立場上の問題」も上位に挙げられる。

● 育児休業等取得の不要理由は「（夫）が役に立たない・邪魔になる」「収入減少への懸念」ど。

- ✓ 『取得したい（してほしい）と思わない』理由の自由記述を回答内容によって分類し集計した結果、「役に立たない・邪魔になる」が最も多く、「収入減少への不安・懸念」「自分で対応できる・必要性を感じない」といった理由が上位に挙げられる。
- ✓ 性別で見ると、女性は「役に立たない・邪魔になる」、男性は「収入減少への懸念・不安」が最も多く、意識差が見られる。